

RISING STARS NEXUS

2024
年度

みらいを
想像し、
創造する
とは？

2025
年度

生きるとは
「判断」の連続。
何をおもい、
あなたはどうか
「決断」する？

[主催] 2024年度GPSP(R2030推進のためのグラスルーツ実践支援制度)採択 オール立命館で取り組む新しい創発性人材育成プロジェクト「Rising Stars Nexus」の創設
2025年度GPSP(R2030推進のためのグラスルーツ実践支援制度)採択 オール立命館で取り組む新しい創発性人材育成プロジェクト「Rising Stars Nexus」の新展開

[協力] 立命館大学/立命館アジア太平洋大学/立命館中学校・高等学校/立命館宇治中学校・高等学校/立命館慶祥中学校・高等学校
立命館守山中学校・高等学校/立命館小学校/利晶学園大阪立命館中学校・高等学校(旧初芝立命館中学校・高等学校)

[連携] 経済同友会 学校と経営者の交流活動推進委員会

〈小中高大学の学生・生徒・児童のための創発性人材育成講義シリーズ〉

RISING STARS NEXUS

みらいを想像し、創造するとは？

みなさんは「働くこと」について、どんなイメージを思いうかべるのでしょうか？ ワクワクしますか？ 大変そうですか？ わかりませんか？ 実際、「働く」とは千差万別、多種多様。とても一つにはまとまりません。身近にいる大人のみなさん以外の働き方を想像できますでしょうか？ しかも第一線で働かれている方々の「考え方、人生とは、」一体どんな景色が広がっているのでしょうか？ 知りたくないのでしょうか？ まだ知らない価値観や生き方との出会い、最先端の技術に触れることは、自身の想像をどこまでもふくらませてくれます。ぜひ五感をフルにつかって、身体で感じとってください！ そして一人ではありません。今回は場所、学校、世代を超えて出会うなかまと一緒に、まだ知らない世界に向けて一歩をふみ出します。なんだかドキドキしますね！ オール立命館だからこそできること、超えられることがたくさんあります。この講義シリーズから得られるたくさんのヒントや出会いが、みなさん自身のみらいをひらくと信じています。さあ、共に想像から創造へ。

Rising Stars Nexusとは

「立命館」に所属する小中高大学の学生、生徒、児童は「Rising star= 将来ある人物」です。一人ひとり無限の可能性をもつ学生、生徒、児童を「Nexus（連結、連鎖、つなげる）」し、「Rising Stars Nexus」というプラットフォームを形成します。そして、オール立命館でR2030において掲げるイノベーション、創発性人材育成を目指す、それが本取り組みの目的です。



「みらいを生き抜く」には想像する力がとても重要です。いろいろな経験をし、いろんなことを知ることによって、想像力は育まれていきます。普段出会えない、第一線で活やくされている方、経験されている方と出会い、話を聞き、まだ知らない世界にむけて、想像をふくらませましょう。きっと新しい発見があります。それが「みらいをつくる」第一歩となるでしょう。

三宅 雅人 (立命館大学 副学長／社会共創推進本部 本部長)

第1回

Theme:

グローバル人材って何？
日時：2025年1月18日〔土〕13:00-16:30
オンライン開催

いろいろな国の人と一緒に働くということ —このシリーズを始めるにあたって—

三宅 雅人 (立命館大学 副学長／社会共創推進本部 本部長)

皆さんが今後、研究者になったり、企業で働いたりする時には、海外との連携がさらに増えていると思います。グローバルに活躍できる人になるにはどうすればいいのでしょうか。私は、イギリスのケンブリッジ大学での3年間にわたる研究者生活を通して、異なる文化を持つ人と一緒に仕事をする時は、相手の文化を知り、そのバックグラウンドに対する理解を深めることが重要だと実感しました。文化的な違いは価値観や仕事の進め方にも表れますが、その違いを知ることが、相手を理解し、仲良くなるきっかけにもなります。海外で受け入れられるには、自分の強みや経験をしっかり知ってもらうことが大切なので、それを伝えるための語学力やコミュニケーション力が不可欠です。でも、スキルだけでは十分ではありません。最も大切なのは、何かに興味を持って行動に移す力、わからないことを聞く力です。このような場で質問をするのもその一つですね。国際的な場では、多様な視点を持つ仲間と協力することで新たなアイデアが生まれます。世界中に仲間をたくさん作り、コンタクトを取り続けてください。長期的な人脈作りも皆さんの財産になります。

新しいものを作る、ということ

安武 弘晃氏 (Junify, CEO)

私は今、アメリカのシリコンバレーでジェニファーという会社を経営しています。しかし、以前は海外に興味がなく、英語も話せませんでした。楽天に転職して、社内の公用語が英語になったことで話さざるを得なくなり、世界中の人と仕事することが楽しくなって、アメリカで起業したというわけです。楽天に勤務していた当時は、ネットでの買い物不安視されていて、楽天市場にも最初は11店舗しか集まりませんでした。それが長い時を経て、今では誰もが知る存在になったことはご存知の通りです。ネットがまだ普及していなかった時代に、三木谷さんはその可能性を信じて楽天を立ち上げました。その前提となったのが「世の中は常に変わり続ける」という真実です。私は今日、未来を創る皆さんに「消費する」だけではなく「創る」側になる面白さを伝えたいと思います。ただし誰もやり方を教えてくれません。自分の中にある「こうしたい」「もっと便利にしたい」という気持ちを原動力に、多様な価値観や文化に触れることによって、新しい発想やイノベーションにつなげてください。未来を予測する最善の方法は自らそれを創り出すことです。

多様性ってなんなん？

柏原 誠氏 (シャリテ・ベルリン医科大学)

私は今、ベルリンの医科大学で海外からの視察や共同研究の調整の仕事をしています。ドイツは地理的にヨーロッパの中心的な位置にあり、陸続きでどこからでも入ることができるので、外国人が集まりやすい状況にあります。そのため、ベルリンでは人口の約40%が外国人、または外国の背景を持つ人であり、長く東西に分かれていたことから、同じ人種の間でも文化的背景が異なるという状況が生まれました。多様性とは、日本では個性や個人を大事にすることと解釈されますが、ドイツでは、人種、文化、宗教など異なる背景を内包したまま、一つの都市、国としてまとまるために必要な価値観です。両国では多様性のレベルが異なるのです。宗教の違いも多様性を形成する一つの要素です。私は、イスラム教を信仰する人たちが、2001年に起きたアメリカの同時多発テロに対して、私と全く違う感想を持つことに驚き、違う倫理や価値観で生活している人があるということを知りました。異文化に触れ、カルチャーショックを受ける体験をすることは、将来グローバルな環境で仕事をする際に必ず役立ちます。留学の機会があればぜひ挑戦してほしいと思います。

登壇者の所属・役職は、講演当時のものです



第2回

Theme:

大学や企業が求める人材？

日時：2025年2月8日〔土〕13:00-16:30

会場：OIC H棟201 Learning Infinity Hall



三宅 雅人

田中 剛氏

宮原 京子氏

立命館大学の最先端教育環境の体験と新たな学び

三宅 雅人(立命館大学 副学長／社会共創推進本部 本部長)

大阪いばらきキャンパスH棟のLearning Infinity Hallは、特殊な教室です。大きなスクリーンが3つ、上階や各テーブルにも合計約60のモニターを設置し、自動追尾カメラも備えています。各テーブルには、タッチパネルモニター、カメラ、マイク、スピーカー、パソコン接続ケーブルが設置され、接続したパソコンの画面を、全体や一部のテーブルと共有することも可能です。グループディスカッションのまとめをプレゼンする時は、テーブルの真ん中にある白いマイクを使って座ったまま行えます。今日は、この教室のさまざまな機能を使って、さまざまな年齢の人と一緒に話し合い、答えを見つけて全体に共有するワークを体験していただきました。社会で求められるのは、いろんなことを自分一人で考え、解決する能力や、年齢や専門の違う人と一緒に課題を解決する力です。OICのテーマは「もっと挑戦が動き出すキャンパスへ」。ここH棟は、挑戦したいことがある人、挑戦したいことを見つけたい人にとって、学部や学年の枠を越えて実践的な学びを広げられる場所でありたいと考えています。

仕事とは何か？ 社会で活躍するために必要な力とは？ ～企業が求める人材像をともに考える～

田中 剛氏(フューチャーアーティザン株式会社 代表取締役社長 CEO兼CHRO)

かつて世界の時価総額ランキング上位は日本企業が占めていましたが、現在は、海外のIT企業が占めています。変化が大きく、その周期も短くなった今、企業も変化し続ける必要があります。また、特に日本では、人口減少に伴いAIとの共存が必要になるでしょう。AIが仕事を奪う側面がある一方、人と接する仕事は残り、IT業界でも独創的なプログラマーは残ると思います。私は、成功するために必要なのは、複雑なものをシンプルにする「論理的思考力」、自己肯定感や協調性、創造力など内面的なスキルを指す「非認知能力」、そして「リーダーシップ」の3つだと考えています。リーダーシップとは、常に正しいことを探しながら推進していく能力です。先の見えない時代、日本でもこの能力の重要性が再認識され始めました。「楽しめる力」もリーダーに必要な力の1つです。リーダーを務めるときは、楽しくやることを心がけて下さいね。私が若い皆さんに伝えたいのは「あなたには失敗する権利がある」ということ。挑戦の中では失敗なんてありません。失敗は、次に活かせるチャンス。うまくいかない経験をたくさんしてほしいと思います。

アジャイルに働く

宮原 京子氏(ファイザー株式会社 取締役執行役員)

2020年初頭、誰もコロナ禍を予測できませんでした。現代は予測不能なことが起こる時代です。社会や環境はもとより、AIの発達によって仕事の内容も種類も劇的に変わるでしょう。働く年数も長くなると思います。こうしたさまざまな想定外の変化に対応しながらキャリアを積んでいくことになる皆さんに「アジャイルに生き、ジグザグに成長する」という言葉を紹介します。「アジャイル」とは「機敏な」という意味で、さまざまな変化に機敏に対処する心構えを持つということです。私は就職氷河期に社会に出て、大学で学んだこととは違う複数の業種を経験し、その都度新しい知識を学び直して現在に至ります。将来のキャリアが今の理想と違っていても、人生は何度でもやり直せます。アジャイルに生きるには、学びをおろそかにせず、健康な体と心を保ち、社会との関わりを持つことが大切です。すぐに正解を求めず、失敗を恐れず試行錯誤し、その中で学びながら将来に備えましょう。「赤毛のアン」のように、曲がり角の先にはもっと楽しいことがあるという希望を持って、人生をポジティブに、アジャイルに生きてほしいと思います。

登壇者の所属・役職は、講演当時のものです

各講演の詳細はウェブサイトでご覧いただけます

<https://www.ritsumei.ac.jp/tryfield/projects/story/series01/>


第3回

Theme:

未来のまなびとは？
日時：2025年3月1日[土] 13:00-16:30
会場：OIC H棟201 Learning Infinity Hall

[パネルディスカッション] 大阪・関西万博×オーストラリア×立命館 新たな学びの可能性

※旧初芝立命館中学校・高等学校

ファシリテーター：三宅 雅人(立命館大学 副学長／社会共創推進本部 本部長)

パネラー：塚本久美子氏(オーストラリア大使館 シニアマネージャー〈教育・研究〉)、西田憲史氏(利晶学園大阪立命館中学校・高等学校[※]主幹)

[塚本氏] オーストラリア大使館には日豪の職員約120人が勤務し、日本政府との交渉や在日オーストラリア人の支援など多様な業務を行っています。私は国連機関勤務を経て、教育政策への関心から大使館職員になりました。オーストラリアは日本人の留学先として人気で、日豪の大学の共同学位プログラムの人気も高まっています。大阪・関西万博にもパビリオンを出展しており、パビリオンの前のステージでは科学ショーも開催します。ぜひ遊びに来てください。

[西田氏] 立命館初芝中高(現利晶学園大阪立命館中高)の生徒は、オーストラリアのバリスメーカー校の生徒と一緒に「地球以外の惑星で居住するためにどんなことが必要か」をテーマとしたオンラインでの共同研究を進めており、大阪・関西万博のオーストラリアパビリオンで発表予定です。初芝立命館中高では、以前から海外との交流を盛んに行ってきました。大学では学部や専攻によって関心の範囲が狭くなるので、小中高生の皆さんは、興味や関心があること以外にも目を向けてほしいと思います。

進歩するテクノロジーを正しく使いこなそう！ ～弁護士が教える SNS や生成 AI との向き合い方～

田中 敦 氏 (田中敦法律事務所 代表 弁護士／ニューヨーク州弁護士)

生成AIを使う際の注意点が2つあります。1つは、人に知られたくない情報の漏洩リスク、もう1つは、AIが出力したデータによる著作権侵害のリスクです。出力したものをそのまま使うのではなく、手を加えて創造性を出すなどの工夫をすることがリスク軽減につながります。AIはとても便利ですが、万能ではありません。誤情報を拡散するリスクを避けるためには、自分で手を動かして出力結果を検証することが大切です。フリー素材をめぐるトラブルも増えています。実はフリーではなかった素材をそうとは知らずに使い、使用料を請求されるケースもあるため、使用前には配布元の規約をチェックしておきましょう。フリー素材も、生成AIも、使用の際には著作権を侵害していないか十分に確認する必要があります。SNS上でも、有名人やアニメキャラクターの画像を安易に使って著作権や肖像権を侵害するケースが見られます。ルールや規約もこまめにチェックしましょう。SNSには詐欺やなりすましの被害にあう危険もあります。トラブルがあったら1人で抱え込まず、周囲の大人に相談してください。

AIアーティストの誕生!? ～キミのセンスで世界を変える～

朝山 悟 氏 (Microsoft Base Ritsumeikan 運営 カコムス株式会社 グループ戦略統括本部 研究開発室)

水越 崇文 氏 (Microsoft Base Ritsumeikan 運営 カコムス株式会社 グループ戦略統括本部 グループ戦略室)

弊社が運営する「Microsoft Base Ritsumeikan」は、日本で唯一、教育機関内に設けられたMicrosoft Baseです。AIをはじめとする最先端のデジタル機器が利用でき、学生はもちろん、地域、企業、自治体の人々にも開かれています。現在、AIは、予測、音声認識、文章読解、翻訳、画像認識などで、人間と同等かそれ以上の性能を持つようになりました。生成AIはさらに「生成する力」も備えています。今日のワークショップでは、皆さんにその生成AIを使って、Microsoftと立命館大学のコラボを象徴するPRキャラクターを作ってもらい、審査もAIが行いました。世の中はここまで来ているのです。しかし、AIにはできないこともあります。例えば、「今年は赤が流行るだろう」との予測はできても「赤を流行らせよう」という創造性はありません。本質的な問いや疑問を持たず、幸せを感じたり、その幸せを誰かと共有したいと思う感情がないため「発想する」ことができないのです。現時点でのAIは、あくまで人の発想を表現する「副操縦士」として伴走してもらおうのがよいと思います。



〈小中高大学の学生・生徒・児童のための創発性人材育成講義シリーズ〉

RISING STARS NEXUS

生きるとは「判断」の連続。何をおもい、あなたはどうか「決断」する？

日々、私たちはさまざまな選択を重ねています。例えば、進路をどう選ぶか、部活動や習い事を続けるかどうか、自身の相談ごとを家族や友だちにどこまで何を伝えるか—こうした小さな選択肢に対する「判断」の積み重ねが、あなた自身の「生きる」を形づくっていきます。社会の第一線で活躍する大人たちも、迷いながら数々の判断、そして決断をしてきました。その経験を知ることで、「自分ならどうするだろう？」という問いが、きっとあなたの心に芽生えるはずです。誰かの正解が、必ずしもあなたにとっての正解とは限りません。大切なのは、自分の気持ちや考えをもとに、自分で選び取ること。時には失敗することもあるかもしれませんが、その経験が必ずあなたの未来を照らす光になり得ます。仲間とともに、新しいことに挑戦したり、未知の世界に一步踏み出したりしてみましょう。生きるとは「判断」の連続です。何をおもい、あなたはどうか「決断」するのでしょうか—さまざまな選択肢の中から、自分だけの答えを探してみましょう。

Rising Stars Nexusとは

「立命館」に所属する小中高大学の学生、生徒、児童は「Rising star= 将来ある人物」です。一人ひとり無限の可能性をもつ学生、生徒、児童を「Nexus（連結、連鎖、つなげる）」し、「Rising Stars Nexus」というプラットフォームを形成します。そして、オール立命館でR2030において掲げるイノベーション、創発性人材育成を目指す、それが本取り組みの目的です。



日々の小さな判断の積み重ねが、「みらいを生き抜く力」を育てていきます。何を思い、どう選ぶか—その一つひとつが、あなたの未来を形づくるのです。この講座では、社会の第一線で活躍する大人たちの声に触れられます。その言葉に耳を傾ければ、まだ知らない世界が広がり、「自分ならどうするだろう？」という問いが芽生えるでしょう。その問いは、きっとあなたの力になります。未来へ続く第一歩を、ここから踏み出してみませんか。



三宅 雅人 (立命館大学 副学長／社会共創推進本部 本部長)

言葉の力で未来を切り拓く： AI時代に必要なコミュニケーション力 ～発想をカタチにする力ー仲間と挑戦するアイデア創出～

三宅 雅人 (立命館大学 副学長／社会共創推進本部 本部長)

未来を切り拓くには、言葉によるコミュニケーションの力が欠かせません。最近、人間だけではなく、生成AIにも言葉によって指示や命令をするようになりました。プロンプトと言われるものです。プロンプトによって適切な内容、指示をしなければ、望む結果は得られません。友人同士、教師と生徒、家族の間で物事を伝える時も同じです。それぞれの文化が違えば、常識や経験も違うので、自分の常識と経験だけで要不要を判断して、根底となる部分の説明を省略してしまうと、相手には伝わらないのです。また、世の中は言葉で表現できるものだけではありません。見たこともない花や動物など、対応する単語がないもの、言葉で定義できないことに出会った

場合、それを言葉でどう表現するかはとても難しいと思います。しかし、グローバルな環境で、常識や育った環境が全く違う人と仕事をするようになると、このような場面がたくさん出てくるでしょう。違う言葉や文化の人にも説明できる伝え方のスキルを持つことを意識してほしいと思います。

未来を切り拓くには、発想を形にする力も必要です。これまでの学びが暗記を主体にしていたのに対して、これからの学びは何かを生み出すこと、問題を解決すること、さらには、問題そのものを自分で見つける力が重要になってくるでしょう。そして、1人ではなく、みんなで一緒にアイデアを生み出し合うことも大切です。集団でアイデアを生み出す方法の一つにブレインストーミングがあります。まず、個人が思いついたアイデアをどんどん付箋に書き出します。質より量を大切にしてください。次に、全てのアイデアを出し合って整理していくのですが、大事なのは、1つのアイデアに対して、「もっとこういうこともできるのでは？」など、アイデアを重ね、組み合わせしていくことです。そうすることでアイデアの幅が広がり、豊かになっていくでしょう。こうした話を、皆さんの今後に活かしていただければと思います。



ひとりひとりが社会をつくる、未来をつくる

新倉 恵里子 氏 (株式会社東和エンジニアリング 取締役社長)

私は今、父が創業した会社を経営しています。とはいえ、もともと後継者として育てられたわけではありません。主婦だった私が企業の経営に関わるようになったのは、夫の会社が経営の危機に瀕したことがきっかけです。倒産すれば周囲に多大な迷惑をかける、何とかしなくてはと必死で働いていた時、癌が見つかりました。小さな子どもを抱え、4回の手術を繰り返しながら働き続けるという大変な経験をしたわけですが、その不安な日々の中で、自分が本当は何がしたいのか、目標が明確になってきたのです。

私がどのように目標にたどりついたか、キーワードで辿ってみましょう。

[不安]→[一生懸命]→[助け]→[光]→[目的]→[目標]→[方法]→

[道]→[歩く]→[観察]→[発見]
→[考える]→[作戦]→[仲間]
→[スピード]→[失敗]→[成功]

不安な中でも頑張っていると、その

うち助けが来ます。助けを受けると光が見え、目的が見えてきます。そうすると目標が明確になり、それを実現できる方法を考え始めます。必死で考えるうちに見えてくる道を一生懸命に歩いていくと、発見があります。発見があると作戦が生まれ、新しい仲間ができます。仲間ができると展開のスピードが上がりますが、調子に乗って失敗することになるでしょう。この失敗がよいのです。失敗によって再び考えることが成功につながるからです。成功までには時間がかかりますが、仲間と一緒に成し遂げたという喜びがあり、感謝の気持ちも生まれます。

人生にはいいことだけでなく悪いこともたくさんあります。でも、頑張っている人を見ると心が動き、力が湧いてきます。社会にはいろんな人がいて、それぞれ違いがあるからこそ、それらの力が合わさることによって、不可能が可能になります。皆さんが力を合わせれば、この日本から世界の平和にまで力を及ぼせる、そんな未来がつかれるのではないかと期待しています。



登壇者の所属・役職は、講演当時のものです



挫折から何を学んで将来にどう活かすか

挽野 元氏 (アイロボットジャパン合同会社 シニアエグゼクティブアドバイザー)

私は、挫折は何度でもした方がいいと考えています。特に10代、20代での挫折はその後の人生を豊かにしてくれます。皆さんの年齢の頃の私は暗黒時代でした。パイロットを目指して受験した航空専門学校は視力要件をクリアできず、その後、航空保安専門学校と北海道大学にそれぞれ2年連続不合格。挫折し、割り切れない思いを抱えて大学に入学したのです。しかし、卒業後は外資系のコンピュータ会社に入社し、現在はアイロボットジャパンの経営者をしています。数々の挫折を経験して、色々なことを学び、活かしてきたことが現在の私につながったと考えています。

挫折は、①うまくいかないことが普通だと思えるようになる ②うまくいくよ



うにするにはどうしたらいいか考えるようになる ③耐え忍ぶ力(レジリエンス力)がつく ④自分の適性を見極める機会になる ⑤うまく

いったときの喜びが格別なものになる ⑥人の心の痛みがわかるようになるなどの学びをもたらします。若い皆さんには、とりわけ④や⑥の学びは重要です。挫折はつらいものですが、得るものも大きい経験だと思えます。

挫折を活かすためには、フレームワークを用いた挫折体験の振り返りをおすすめします。自分が何を目指し、その中で何が起きたかという事実があり、それに対して自分がどう思ったかという解釈や意味づけがあります。事実と解釈を比べながら、これらがどのように変わっていき、何を得たかを表に書き出してみるのです。自分の挫折経験を客観的に見ることができ、何をどうすればよかったのかがはっきりします。

挫折の最も大きな効用は、何度も繰り返すうちに、自分の好きなこと、得意なことが明確になってくることだと思います。若い皆さんは何度も挫折して、自分の能力を見極めてほしいと思います。挫折は恥ではなく、挑戦した証拠です。いろんな挑戦をして、成功と挫折の経験を重ねていくことが、将来を拓き、未来を引き寄せる力になります。どんどんチャレンジしましょう。



世界でどんな変化が起きているのか？

その中であなたはどうか成長し、どんなキャリアを作る？

〈変化の激しい多様な社会で、あなたが「未来を切り拓く」ためのヒント〉

渡部 一文氏 (株式会社ロッテホールディングス 取締役)

ASEAN (東南アジア諸国連合) の経済成長率は日本の10倍、GDPでは2028年頃に日本を超えます。日本の経済はジリ貧なので、これから皆さんは、国内だけではなく、広くアジアなどを視野に入れて仕事をすることを考える必要があります。日本は高齢化、人口減社会で、人手不足など困難な問題を抱えています。これをビジネスチャンスとする発想の転換も必要です。日本の経験してきた問題は、今後、アジアの国々でも顕在化してくるでしょう。日本はいわば先にテストの問題を解いた国であり、これまでに作られてきたソリューションをアジアで活かせるかもしれません。さらに、アジアでは中産階級が急増しており、今後のビジネスでは、アジアの人が求める



ものを作れるかどうか、極めて重要な鍵となります。今、私がアジアに注目しているのはこうした理由からです。

日本の経済が伸びなかったのは、現状維持を良しとしていたからです。国や企業を発展させていくためには、常にチャレンジし、イノベーションを起こす必要があります。さらに、イノベーションを起こすには、挑戦を促す姿勢も大事です。挑戦には失敗がつきものですが、失敗を怖れて挑戦しなければ、経験値は積みません。

世の中が大きく変わり、AIによって今までの仕事なくなるかもしれないという非常に厳しい時代に、皆さんは社会に出ていくことになります。まず、自分は、自分の株式会社の社長だと思ってキャリアを作っていく必要があります。そのためには学び続けることが大事、また、失敗を恐れず挑戦する姿勢、リスクを取る勇気を身につけることも大事です。キャリアは、偶然の出会いや機会をどう活かすかで大きく変わるので自分から偶然をつかみにいくことも重要です。そのためには、常に好奇心や冒険心を持ち、柔軟な思考力を養いましょう。自分の箱をどんどん大きくすること、AIを含めテクノロジーなどのスキルを伸ばすことも大事です。私は、これらが人生の成功の鍵ではないかと考えています。



2024年度

RISING STARS NEXUS 2024

みらいを想像し、創造するとは？

全3回開催

2025/1/18 オンライン
2/8 OIC 対面
3/1 OIC 対面

総参加者
269名

2025年度

RISING STARS NEXUS 2025

生きるとは「判断」の連続。 何をおもい、あなたはどうか「決断」する？

全1回開催

2026/1/24
OIC 対面+オンライン

総参加者
152名

〈全体満足度〉

98%

2年
連続

98%

満足度:「とても高い」+「高い」(全3回すべて98%)

満足度:「とても高い」+「高い」(「とても高い」67%+「高い」31%)

VOICES
参加者の声

常識にとらわれず新しいことにチャレンジすることの良さ、面白さを教えていただいた。自分も新しいことにチャレンジするマインドを持ち、行動できる人になりたい。[高校生/第1回]

1時間があったという間でこんな体験は初めてでした。挑戦することがいかに大切かを知り、学生の間にたくさん挑戦していきたい。[高校生/第2回]

普段親から伝えても響かない言葉を、第一線で活躍されている方からの言葉で説得力があった様です。[保護者/第2回]

自分が普段知らない、よくわかっていない世界を、わかりやすく教えていただけました。特に生成AIの体験は面白かったです。世界が広がった感覚がありました。[保護者/第3回]

VOICES
参加者の声

どの講義も興味深く、すべてが自分自身の成長につながるものだと感じた。[高校生]

自分が今のままでいいのかと悩んでることを肯定してくれた。[高校生]

失敗を避けるのではなく、自分の成長のために積極的にチャレンジしていこうと前向きな気持ちになりました。[高校生]

機会が無ければ、人は発想や行動がだんだんと小さくなっていきますが、今回の講演により、視野や興味が同心円上に広がる感覚を味わいました。[保護者]

学校法人立命館すべての小中高大と利晶学園大阪立命館から、児童・生徒・学生・保護者が一堂に会し(一部オンライン実施も行いながら)、Learning Infinity Hallの同じテーブルで世代や学校の枠を越えたグループディスカッションを行い、最先端の学びを体験いただきました。附属校同士が顔を合わせ、年齢も背景も異なる仲間たちが同じ場で対話できたことは、この取り組みならではの喜びです。GPSP(グラスルーツ実践支援制度)の採択を受け推進してきた「オール立命館でのイノベーション・創発性人材育成」。この2年間の取り組みを通じて、確かな一歩を踏み出すことができました。一人ひとりの「Rising Star」がNexus(つながり)を生み出しながら、ともに想像から創造へ——これからも皆さんと一緒に歩んでいきます。

三宅 雅人(立命館大学 副学長/社会共創推進本部 本部長)





主催

2024年度 GPSP (R2030推進のためのグラスルーツ実践支援制度) 採択
オール立命館で取り組む新しい創発性人材育成プロジェクト「Rising Stars Nexus」の創設
2025年度 GPSP (R2030推進のためのグラスルーツ実践支援制度) 採択
オール立命館で取り組む新しい創発性人材育成プロジェクト「Rising Stars Nexus」の新展開

協力

立命館大学／立命館アジア太平洋大学／立命館中学校・高等学校／
立命館宇治中学校・高等学校／立命館慶祥中学校・高等学校／立命館守山中学校・高等学校／
立命館小学校／利晶学園大阪立命館中学校・高等学校 (旧初芝立命館中学校・高等学校)

連携

経済同友会 学校と経営者の交流活動推進委員会

本取り組みの内容はWEBでも公開中です

2024年度



2025年度



TRY
FIELD
RITSUMEIKAN

発行 2026年4月

運営

三宅 雅人 (立命館大学 副学長／社会共創推進本部 本部長)
埜口 広和 (総合企画部 社会共創推進課 課長補佐)
倉科 健吾 (情報システム部 情報基盤課 課長補佐)

※2026年度3月時点